

ヒガンバナ



中国から渡来した帰化植物で、彼岸花と書き、秋の彼岸の頃に花が咲くことから起った名前である。別名マンジュシャゲは、曼珠沙華で、天上に咲く赤い花をあらわす。「法華経」に出てくる梵語からとられたといわれている。シタマカリという別名は、誤って口にしたら、中毒して、舌が曲がって硬直し、ものが言えなくなるといことから名づけられた。また、花が咲くときに葉がないため「はみずはなみず」とも呼ばれる。

北海道を除く日本、中国に分布している。日当たりのよい土手や畦道、墓地に自生する。赤い花なら曼珠沙華と歌われたようにヒガンバナは美しい赤色の花であるが、白い花を咲かせるシロバナマンジュシャゲもある。サクラは約2ヶ月かかって日本の北まで咲いていくが、ヒガンバナは全国一斉に咲く。秋の彼岸頃、地上に葉がないのに、いかにも唐突に地下茎から高さ30cmぐらいの花茎を1本出し、その先に赤色の美しい花を数個輪状に開く。6花弁は細長く外側にそりかえり、へりは縮れている。花が終わると、その後に、光沢のある深緑色の葉を多数出す。冬枯れに深緑色の葉が冬の庭を楽しませて

くれる。葉は翌年3月に枯れ、夏から秋の花の頃には葉がない。昔は、墓のそばによく生えるところから庭植えを嫌う地方も多かった。全草にリコニン、アルカロイドなどの有毒成分を含む。同種族に鍾馗欄(シヨウキラン)、ナツズイセン、キツネノカミソリなどがある。

つきぬけて天上の紺珠沙華
山口肇子
曼珠沙華迷るるごとく野の列車
角川源義
道様に美女谷とあり曼珠沙華
野沢 純

効能

肋膜炎、腹膜炎、腎臓病、脚気などの水分をとるのに外用として用いる。

用法

トウモロコシ粒をすり鉢でよくすり碎き、秋に採取したヒガンバナの地下の鱗茎一個をおろし、ねでおろし、この二つをすり鉢でよく混ぜて、布に厚く塗り、両足の裏一面に貼って包帯で巻いておくと約10時間位したら、体の余分な水分が小便か大便になって出る。これを何日か続けるとよい。

養正会薬局 (鎌山)

民間療法

柿の葉茶

ビタミンCの含有量が抜群柿の葉は、あらゆる病気の予防の基礎となるビタミンCの含有量がほかの葉に比べて抜群です。また、成分にタンニン、カリウムが含まれているので、お茶がわりに飲むと利尿、血圧安定の効果があります。

(柿の葉茶のつくり方)



手技療法

「中脘・足の三里」

数多いツボの中で、とくに敏感に病変の反応をあらわすツボを腧穴、腧穴といひ、治療にもよく使われます。

「中脘」は、おへその約4cm上にあるツボで、任脈上にある腧穴です。みぞおちあたりの不快症状をやわらげ、胃痛や腹痛、下痢を治します。

「足の三里」は、ひざ下3cm、脛骨の外側にあり、昔から効能の多いツボとして有名です。とくに、胃腸障害に効果的なツボで、胃腸の働きを回復させ、全身の疲れも取り去ります。



知っていますか?

おばあちゃんの知恵

まだ娘の頃、涼しいところで足をむき出しにしていたら「女は足を冷やしちゃいけない」と、よくおばあちゃんがいって、おりました。ご存じのとおり、血液は足にも流れております。冷たい足で冷された血液が腹部に帰ってくる時、最初に通過するのは骨盤内の臓器です。骨盤内には子宮や卵巣など、女性に

薬剤師 高木 丈夫
おばあちゃんの知恵

こどもの病気シリーズ

インフルエンザ

空気が乾燥して温度が下がってくる、インフルエンザがはやる季節になります。毎年12月から2月にかけてが多いですね。一昨年は、体力のないお年寄りや、幼児に多くの死亡者が出て、去年はワクチン接種をする人が増え、ワクチンが不足するくらいでした。今年もすでに接種が始まっております。一部の医療機関ではキャンセル待ちの所もあるようです。

症状

インフルエンザには、A香港型、Aソ連型、B型などがあり、それぞれ特徴ある症状を呈します。A型が特に大流行しやすく、症状が強いようです。高い熱が急に出たかと思うと、悪寒、頭痛、筋肉痛が現れ全身がだるくなり、咳や、喉の痛み、鼻水も続きます。熱は、高い熱が4-5日続き、治るのに一週間くらいかかります。二次感染を起こしやすいので、肺炎や、気管支炎、副鼻腔炎、咽頭炎などに注意します。インフルエンザはウイルス感染ですが、二次的細菌感染によるインフルエンザ肺炎は、しばしば重症化します。で、咳や痰が持続したり、息苦しさが見られる場合は医師の診察を受けて下さい。

治療

治療はかぜに準じます。が、早めにしっかりと行うことが大切です。抗生剤は

ウイルスには効きませんが、二次感染を予防するために使うこともあります。昨年、インフルエンザウイルスに効く薬が使われるようになりました。発症して二日以内に服用すれば、ウイルスの増殖を抑えることができ、重症化せずすみずみです。服用すると、中にはふたつきが出たり、興奮する方もあるようです。が、治療効果は期待できるようです。今年からは、飲むのではなく、吸入する。インフルエンザウイルスの薬が発売されます。インフルエンザかもしれないと思ったら早めに病院に行つた方がいいかもしれません。ね。そして水分をたっぷり取り、無理をせず暖かくしてゆっくり休みましょう。

予防

インフルエンザにかからないためには、かかっている人に近づかない、人混みを避けることが一番です。外から帰ったら手洗い、うがいをして、ウイルスを身体に入れないよう心がけましょう。室内の空気を乾燥させないように注意し、睡眠不足などで、抵抗力を落とさないようにすることや、食事も大切です。粘膜を丈夫にするビタミンAやE、抵抗力をつけるCをしっかりと摂りましょう。

養正会薬局 薬剤部